

平成29年3月16日

四国地方整備局

備讃瀬戸北航路において四国初のICT浚渫工事を実施します。

四国地方整備局は、平成29年3月中旬に公告予定の備讃瀬戸北航路(-19m)浚渫工事(香川県丸亀市広島町沖合)において、ICT活用工事を実施します。

このICT活用工事は、航路浚渫の現場において、マルチビーム測深機※1)による三次元データを活用し、浚渫工事の施工管理を行うものです。具体には、

- 1)航路の埋没状況をマルチビーム測深機で三次元測量を行う。
- 2)三次元測量データをもとに浚渫位置の把握、浚渫土量の計算を行う。
- 3)浚渫船による航路浚渫の実施。
- 4)浚渫工事の後、再度マルチビーム測深機により工事の検査を行う。

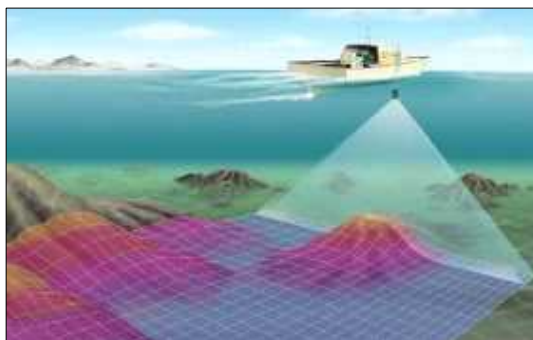
なお、ICT活用工事(浚渫工)はi-constructionの一貫として平成29年度工事から全国で適用されるものであり、四国では初めての工事となります。

※1)マルチビーム測深機:複数の超音波ビームによって水深を面的に測量する測深機。

水深データを計算機処理することで、3次元で地形を把握できる。



位置図



マルチビーム測量イメージ図

<本件に関する問い合わせ先>

国土交通省四国地方整備局港湾空港部

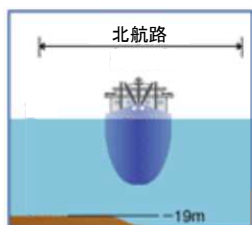
港湾空港整備・補償課

課長補佐 宮本裕輔

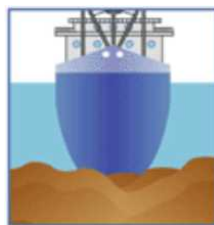
TEL:(087)811-8332(直通)

備讃瀬戸北航路における四国初のICT浚渫工事

備讃瀬戸北航路(-19m)浚渫工事の目的



▶ 埋没
◀ 浚渫

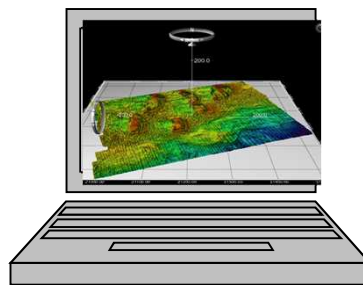
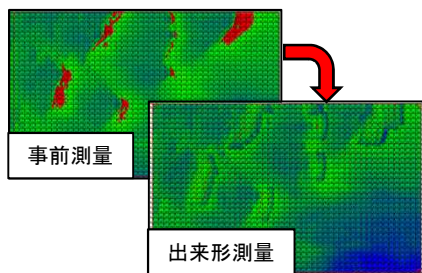


埋没で水深が浅くなった海底を浚渫して水深を確保



浚渫工事状況写真

マルチビーム測深機を用いた三次元データによる施工の効率化



施工及び施工管理

検査

- ・マルチビーム測深機を用いて3次元で事前測量及び事後測量を実施
- ・3次元測量データによる数量計算及び出来形管理

- ・3次元測量データを用いた竣工検査

- メリット① 浚渫土量の計算が容易に行え、人工数の低減が図れる。
- メリット② 三次元データはデジタル化されており、測量・施工・検査に至る一連の工事プロセスで活用できる。